

平成30年5月23日

総務文教委員会

阿久根市議会

- 1 会議名 総務文教委員会
- 2 日時 平成30年5月23日(水) 10時03分開会
11時06分閉会
- 3 場所 第2委員会室
- 4 出席委員 大田重男委員長、濱田洋一副委員長、渡辺久治委員、
西田数市委員、竹原信一委員(遅参)、竹原恵美委員、
濱之上大成委員、木下孝行委員
- 5 事務局職員 議事係長 牟田 昇
- 6 会議に付した事件
- ・議案第30号 放射性廃棄物の持ち込み拒否に関する条例の制定について
 - ・所管事務調査について
- 7 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

大田重男委員長

ただいまから、総務文教委員会を開会いたします。

本日は当委員会において閉会中の継続審査となっております議案第30号及び所管事務調査について審査、協議いただくために開催いたしましたので、よろしく願いいたします。

なお、議長が来客のため10時30分ごろ、一旦、休憩をとりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議案第30号 放射性廃棄物の持ち込み拒否に関する条例の制定について

大田重男委員長

まず初めに、議案第30号 放射性廃棄物の持ち込み拒否に関する条例の制定についてを議題といたします。

先の委員会では、慎重に審議していくべきとの意見があったところです。

ここで、本件に対し、審査方法も含め御意見を伺います。

竹原恵美委員

今、資料をたくさんいただいたので、それをまず見てから意見を、いろんな考えを出しては、資料についても含めていかがでしょうか。

大田重男委員長

ほかにありませんか。

濱之上大成委員

環境保全についての問題は、やっぱり国自体の政策が大事であって、今で決定してませんよね。鹿児島県の場合は、県、川内市が結局、了解のもとに稼働してきた現状があるわけです。県内にごみがあるわけですね。そうしたときに、個人的に申し上げれば自分たちのごみをほかのところに持っていかとか、そういうこと自体もちょっと私は理にかなってないと、そういうふうに、自分たちのつくったごみをですね。長年にわたって先人の人たちが決定した問題でありますけれども、しかし、鹿児島県民としての責任も出てくると、私はそういうふうに思っております。今、私から言えば阿久根市にはいない。川内市にごみがあるんだから川内市でまとめなさい。これだったらまだ理にかなってるんですが。しかし、かと言って難しい問題があります。だから、こういったのは慎重にまだしていけないかと。他市のこういう出てるのは非常にわかります。それでやっぱり、状況からしたときにもうちょっと時間をかけてですね、他の状況も見て確認しながらもしたほうがいいんじゃないかなというふうには私は思っているんですが、一個人ですね。もちろんこの条例に関してする、しないに関しては賛成、反対ではありません。だから、そういう意味ではもうちょっと時間をかけてみたいというふうには私は思います。

渡辺久治委員

きょうのこのすばらしい資料を揃えてもらったんですけども、これにあるように阿久根市は半分ですかね、輸送面で好ましい地域と好ましくない地域が。協本は好ましくない地域となっておりますけれども。今、大体この日本において、原発が稼働している状況において、今の状況でこれを受け入れるというのはとんでもない話だと私は思っております。もし、この原発が終わったら、これは今後やめて廃炉にしようとなった段階では、そういった運転をとめてですね、そういった段階では真剣にどこにするかというのは本当に真剣に考えないといけない問題だと思います。今、そんなときやな。そんなときだと思うけど、今、現在で稼働した状況で、うちにいいですよとかとんでもない話で、今はやっぱり自治体としてはっきり

と述べるべきだと思いますので、即、これは条例制定はしてもらいたいと私は思います。

木下孝行委員

私のほうもこの条例制定を否定する気持ちでは私個人としてはありません。ただですね、この問題は、先ほど濱之上委員の意見ともかなり重複するところがあるんですけども、やはり慎重に審査をして、国の判断、国の考え方がしっかり示される中で我々も判断をしていくべきものではないかなというふうに思います。核のごみ、いわゆるどこかが引き受けなきゃいけないという、そういった状況の中でもありますし、特に我々、鹿児島県は原発が立地している県でもありますし、そういったところを含めていろいろ今後の動きを見ながら調査していくべきだろうと思いますし、慎重にしたほうがいいと思います。

濱田洋一委員

先ほど来、何人かの委員の方が話をされていますが、放射性廃棄物の持ち込み拒否に関する条例、このいわゆる目的等については、提出された方々に私も同感であります。非常に大切なことであると十分理解しているところではありますけれども、やはり、最終処分場及び持ち込み等につきましては、国が前面に立って取り組むべきものと考えております。また、皆さんのお手元にあります科学的特性マップ、この提示をなされておりますけれども、これにつきましては、今後、この提示を契機とした中で、国民的な議論が行われていくことが重要ではないのかなというふうに考えております。このようなことからですね、もっと時間をかけてですね、議論を重ねていくことが大事なことです、もっと議論を重ねていくことが必要と思っております。

大田重男委員長

慎重審議ということですね。

濱田洋一委員

はい、そうです。

竹原恵美委員

今、それぞれの考えが、方向性と言いながら出てきたところなんです、そもそもスタートとしては、原発というのは燃料サイクル、ごみが出ずに再処理すればずっと使えるという前提で国が進めてきた、ごみはなかったはずだと。全国、そういう場所が、原発がつくられてきて、結局ごみが処分できないから今回最終処分場を日本のどこかにしなきゃいけないといったときに、今、阿久根が地図を見たとおりに、よそよりも1歩も2歩も前に出ている。土地も好ましい、輸送面でも好ましい地域だと、今、ポイントされている。そして国はこれからはいい場所に対しては交渉していくという文書も、この分厚い文書には付いてるんですね。だから、これから交渉に入っていく、国はそういう方針でこの地図を出しましたというところで、阿久根市が何もアクションをとらずに、こうやって資料をいただいたとおりに日本中条例もつくって、自分のところに合わない、経済状態も壊れてしまうということで、はっきりと各地域が声を上げている中で、阿久根市議会は阿久根のことを思って動いて全く私はいいんじゃないかと。今、国はあなたのところが1歩も2歩も前よ、いい場所だよと、これから交渉していくよという文書も付けて出されたマップですから、最終処分場として。処分場としてマップをつくっているわけですから、これに対しては阿久根市はアクションをしていいんじゃないかと私は思うところです。以前に、2014年の5月12日には北さつま漁協は原発の再稼働、当初は稼働してなかったので、再稼働に対しても理事会は意思表示をして反対だという意思を出されたというのが新聞にも載りましたが、漁協関係者、漁師の方とも話をしまして、阿久根の状況がポイントされている、最終処分場としてもいい状態だという話もちょっとお伝えしたら、まだそんなところにあるの、まだ阿久根は、漁協は風評も含めて考えていかないかんような状態に置いとくのかというような声が聞こえてきます。阿久根市は、阿久根市議会は阿久根の経済状態を考えて、今、アクションを起こして私はいいときだと思っております。

大田重男委員長

今、竹原恵美委員が言いました、いろんな資料を出された、それをもとに慎重に審査したという意見もありました。それはそれでいいですね。

竹原恵美委員

もう資料は皆さん自分で御用意もできて、今、渡されている状態ですが、すでに時間も経っているのでごらんになる方も見てらっしゃるとも思います。これ以上の資料が国からすぐ出る状況ありません。もう、渡辺委員と同じように、今、手持ちの資料、これ以上のものは見込みがないところなので、表決して、御意見聞いて、それぞれの意見を出しあって表決に向かっていいと思います。

大田重男委員長

今、渡辺委員と竹原恵美委員はこれで表決していいんじゃないかという意見。それと濱之上委員、木下委員、濱田委員は慎重審議をまだしたいと、そういう意見があるわけですね。西田委員はいかがですか。

西田数市委員

私もこの資料を読みながら考えてるんですが、皆さん両方ともいい意見なんです。

[発言する者あり]

皆さんの意見はいい意見ですと。もっと真剣に継続していくのもいいし、また即決に決めるのもいいし、という形で両方ともいい意見なんです。私の意見は濱之上大成委員の先ほど言いました、ちょっと近いかないという気持ちがあるんですが。これはまた難しい問題ですので、もっともっと真剣に考えていくべきかなと思っているところです。

濱之上大成委員

ちょっと補足しますけど、私としてはですね、人間の倫理として、原発のない他県にはいい迷惑なんですよ、ごみはいらないということ自体が。私は個人的に申し上げれば、阿久根にはいらないけど川内にはつくんなさいという、そういう極端な考え方を持ってます。というのは、結局それを理解した上で稼働した以上はですね、そこに出るごみというものをすべきだと思うんですね。川内市も今プールに入れてる使用済み燃料にしてもですね、今、福島でいう乾式の入れない状況におくというのはよかったという情報もあります。例えば、そういうのをしてみるとかいう努力も今のところありません。これは国がすることですから。だから、国と九電がやっぱりきちっと努力をしてほしいと、個々には九電には言ってますけど、やはりそういう動きもないこと自体がですね、やっぱりおかしいわけで、やっぱりそこはしっかりと国がきちっと見せてもらわんと、私にはどうこうは。さっきも言いました、この条例をつくることに関しては、あくまでも反対ではありませんけれども、今、そういった状況をもう一度各自治体の状況とか、いろいろ確認をしながらも、もうちょっと時間をいただければなというふうには私は思うものですから、そういうふうに申し上げたところでした。

大田重男委員長

今、皆さんの意見を伺いましてですね、表決してほしいと、そういう意見が2人。

渡辺久治委員

今、この資料にもありますように、鹿児島県でもかなりの複数の市町村がそういう条例をつくって制定しているわけですね。はっきり意見を述べていると。これは幾ら勉強したってこれ以上勉強できませんよ、我々は。実際に廃炉に携わったこともないし、あとはこの常識で判断、早く声を上げないと、何かいつまでもだらだらしているという感じでもあるし、市民からもそう見られると思います。私は今度の議会で制定していただきたいというふうに思っております。

大田重男委員長

ちょっと休憩に入ります。

(休憩 10:18~10:20)

大田重男委員長

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

濱田洋一委員

本日の委員会ではですね、それぞれこの会で条例制定を賛成のほうにと、または慎重審議という御意見がありました。やはりこの案件については、非常に重要な案件ということもございませぬ。これは各委員の方も御理解していただいております。我々、議会の中で採決ということで構わないと思うんですけども、ただ、大きい案件ですので、市の執行部の考え方等の意見も確認した中で、さらに会期中も、6月の第2回定例会の会期中で、再度委員会を開いてですね、執行部の現時点での考え方、それで委員会で協議するというようなことでも私はいいんじゃないかなというふうに思うんですけども。継続審査ということでお願いできたらなと思っておりますけれども。

大田重男委員長

それではここでお諮りいたします。

ただいま議題となっております議案第30号については、さらに第2回定例会の会期中に審査を行いたいと思っておりますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認め、さらに審査することに決しました。

○所管事務調査について

大田重男委員長

次に、本委員会の所管事務調査事項について協議願います。

昨年の調査では、学校の規模適正化等について、佐賀県多久市を、再生可能エネルギービジョンに関する事項について、福岡県糸島市を、災害対策及び避難計画について、福岡県古賀市を調査し、所管課の意見を聴取したところです。

ただし、再生可能エネルギーに関しては、当初予定しておりました福岡県みやま市の調査ができなかったため、今回、その調査について協議をお願いするものです。

なお、その後、福岡県八女市の竹材等を使ったバイオマス活用推進計画における活動も参考になるのではないかとその意見もありました。

さらに、災害対策及び避難計画について、現在、相互の災害支援協定を結んでおります、熊本県多良木町において、連携及び支援の実効性の向上についても協議願いたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

〔発言する者あり〕

それでは休憩いたします。

(休憩 10:24～10:46)

大田重男委員長

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

各委員の御意見をお願いいたします。

先ほど出ましたみやま市、八女市、多良木町。

濱田洋一委員

今回、所管調査の検討資料ということで、みやま市、八女市、多良木町、出ておりますけれども、我々が総務文教委員会でこれまで調査してきた教育関係についてですね、今回の検討資料の中には出ていないんですけども、やはり、当市においても学校規模適正化協議会も立ち上げられ、今後、阿久根市の小中学校の考え方、方向性、あり方というのが、方向性をつけていかれると思うんですが、やはり、それぞれの地域差はあるかと思うんですけども、私としては教育行政の今後のあり方ということでは、所管調査に行きまして、取りまと

めというか、総括でというような形で総務文教委員会ではやったほうがいいんじゃないかというふうに思うんですけども、いかがでしょうか。

大田重男委員長

今、学校規模適正化のやつかな。

濱田洋一委員

うちでは今、学校規模適正化協議会が設立されて、今後の学校のあり方について協議が持たれております。ただ、阿久根市の将来を踏まえた中で、どういった方向性がいいのかということで、また、所管する課からですよ、今の現状、協議内容等踏まえて、今後のあり方、方向性をお聞きした中で、もう1回、類似の自治体の調査をできたらなというふうに思いますけれども。ほかの委員の皆様方はどういうふうに思ってますか。

西田数市委員

私も学校教育関係なんですけど、今まで所管調査で小中一貫校、統廃合に向けての所管調査を行いました。また、新たな問題が学校関係で、支援の子供たちが急激にふえているということで、鹿児島県でも4,722名、新年度はふえました。また、阿久根市も例外でなく、ものすごく倍ぐらいふえてきてます。それに関しての所管調査をまた新たにやってみたいと思います。

[発言する者あり]

大田重男委員長

ちょっと待って。休憩いたします。

(休憩 10:49～11:04)

大田重男委員長

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

ここでお諮りいたします。

今、話があったのが、みやま市、八女市の再生可能エネルギービジョン、それを1日の行程でやるということでしたと思いますけど、御異議ないですか。

[発言する者あり]

いや、みやま市と八女市。

[発言する者あり]

あとで出ました教育関係、多良木町との支援協定、それはまた後日考えて、日帰りでやりたいと思いますから、それをお願いいたします。

視察先、日程については委員長に一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

御異議なしと認め、そのように決しました。

日程が決まりましたらお知らせいたしますので、よろしくをお願いいたします。

以上で本日予定しておりました日程はすべて終了しました。

以上で総務文教委員会を散会いたします。

(閉会 11時06分)

総務文教委員会委員長 大田重男